

## 新奇ナノカーボン誘導分子系に関する国際ワークショップ報告

2016年5月17日に、東北大学(仙台)で International Workshop on Fundamental and Applied Research of Novel Nanocarbon Derivatives: Toward Bottom-Up Approach to Nanotechnology Era が開催されました. このワークショップは, 2016年4月に発足した東北大学の学際研究重点拠点「新奇ナノカーボン誘導分子系基盤研究開発センター」が主催した第1回目の国際ワークショップです. ナノカーボンに関する国内外の著名な研究者が集まり, 最新の研究成果を報告して, 今後の研究の展望について話し合いました. 講演はすべて招待講演で, フラーレン  $C_{60}$  の存在を予想したことで有名な大澤映二名誉教授(株式会社ナノ炭素研究所)によるナノダイヤモンド合成の報告や, 村田靖次郎教授(京都大学)による水内包フラーレンの合成報告, 畠山力三名誉教授(東北大学)による窒素内包フラーレンの合成報告など, 刺激的な発表が次々と(計13件)行われました.

このワークショップを企画した新奇ナノカーボン誘導分子系基盤研究開発センターは, 東北大学発のベンチャー企業(イデア・インターナショナル社)が世界に先駆けてリチウムイオン内包フラーレン( $Li^+@C_{60}$ )の大量合成に成功したことを受けて, 東北大学をナノカーボン研究の国際的な研究拠点にしようという目的で2016年4月に発足したものです. たまたま, 鈴木が理化学研究所(仙台支所)に在籍していた期間に, 東北大学とイデア社との共同研究で進めた  $Li^+@C_{60}$  のテラヘルツ分光研究が, 同センターが関係する最初の研究成果と認められ, 招待講演リストに加えて頂きました. 講演は, “Low-Frequency Vibration and Rotation of  $Li^+$  Ion Encapsulated in  $C_{60}$  Fullerene Investigated by THz Spectroscopy”というタイトルで行いました.

(鈴木 晴)



A group photo of participants on International Workshop on Fundamental and Applied Research of Novel Nanocarbon Derivatives.